



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内小学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
五ヶ瀬町立 鞍岡小学校	鞍岡小学校学校運営協議会 令和3年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	五ヶ瀬町地域学校協働本部
五ヶ瀬町立 三ヶ所小学校	三ヶ所小学校学校運営協議会 令和3年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	五ヶ瀬町地域学校協働本部
五ヶ瀬町立 坂本小学校	坂本小学校学校運営協議会 令和3年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	五ヶ瀬町地域学校協働本部
五ヶ瀬町立 上組小学校	上組小学校学校運営協議会 令和3年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 2名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	五ヶ瀬町地域学校協働本部
五ヶ瀬町立 五ヶ瀬中学校	五ヶ瀬中学校学校運営協議会 令和3年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	五ヶ瀬町地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

五ヶ瀬町は山間の小さな町で、子どもたちは、豊かな自然の中、元気に成長している。町民の教育に対する思いは強く「学校に関わろう！」「学校を支えよう！」という意識も高い。町では、幼児からお年寄りまでが、生涯にわたって互いに関わり合いながら学び続けることのできる地域創造・循環型教育システム「五ヶ瀬教育グランドビジョン」のもと地域と学校が一体となって町の未来を支える人材育成に取り組んでいる。

目標や目指す姿(学校)

地域(なかま)とともに特色ある学校をつくる。

目標や目指す姿(地域)

学校(子ども)を核として、子どもの教育に当事者意識を持って取り組み、幅広い地域住民による多様な活動を充実させる。



鞍岡小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員 | <input type="checkbox"/> 放課後子ども教室代表者 |
| <input type="checkbox"/> PTA代表者 | <input type="checkbox"/> 地域住民代表者 |
| <input type="checkbox"/> 各種団体関係者 | など、計 5 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> | 年間平均 5 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

R=リサーチ(実態把握)・V=ビジョン(方針・目標設定)・P=プラン(計画)・D=ドゥ(実践)・C=チェック(評価・検証)・A=アクション(改善)という、RVPDCAサイクルを確立し、本活動がより良いものに進化し続けていけるよう運営している。
年度当初の第1回の学校運営協議会は、町内5校の同時開催としており、学校運営協議会、地域学校協働活動それぞれの意味・意義に関する研修を行うとともに、その一体的推進の大切さについて考える機会としている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

地域(なかま)とともにある学校づくりのため年5回開催している。特に、生活科や総合的な学習の時間を中心としたふるさと学習「豊かな体験活動」についての協議や学校の美化活動への支援要請、地域との合同行事の打合せ等には欠かせない場となっている。



合同協議会の様子

地域学校協働活動

「豊かな体験活動」の講師を地域住民・高齢者・NPO・事業所・各種団体等が担っている。子どもたちは、地域の「ひと・もの・こと」と十分ふれ合う機会となり、大人は、地域の子どもの、地域を思うなかまたちと出会う機会となっている。



小学校1年生の梅ジュース作り

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校運営協議会と地域学校協働活動のスローガンをそれぞれ「地域(なかま)とともにある学校づくり」「学校(子ども)を核とした地域づくり」とし、学校にとって地域は「なかま」であり、地域にとって学校は地域の未来を担う「子ども」が育つ場所であることを確認することで、五ヶ瀬町の教育スタンス「地域があって子どもがいて学校がある」の実践につなげた。

取組

成果・効果

- ◆教員だけでは教えることのできない地域の自然・文化・歴史など、多様な学びを子どもたちに届けることができている。
- ◆ふるさと学習の集大成として、中学校3年生において、町の未来についての政策提案活動「五ヶ瀬デザインプロジェクト」を実施しているが、例えば、「この企画に町内の小・中学生も関わることができる」などの提案内容が見受けられるようになり、「町のために自分たちも」という主体性が生まれてきている。
- ◆「豊かな体験活動」には、様々なジャンルがあり、伝統文化にふれる内容も含まれている。地域の伝統文化の継承という面からなくてはならない活動となっている。
- ◆高齢者にとって地域学校協働活動は、子どもたちのためにという「やりがい・生きがい」を感じる時間となっている。
- ◆地域と小学校の合同運動会の実施など、互いの課題解決のための協働が生まれた。